

修士学位論文等要旨
Abstract of Master's Dissertation or Selected Topical Research

論文提出者 / The person who submits a thesis

専攻名 / Department 工学専攻
分野名 / Division 水環境・土木工学分野
学籍番号 / Student ID 23W3018G
氏名 / Name 角谷 拓海

論文等題目 / Title

500m メッシュ別将来人口推計における誤差地域と逆転減少地域の出現傾向

論文等要旨 (1,000 字以内) / Abstract (Within 1,000 characters in Japanese or 300 words in English)

近年日本では、人口減少や少子高齢化、市街地の拡散や低密度化から、コンパクト・プラス・ネットワークや地方創生などが推進されている。これらは、細やかな視点で都市の将来像を想定するものである。そのため、市町村単位だけでなく、小地域・メッシュ単位などで将来を仮定し、具体的に計画する重要性が高まっている。その中で、国政局は、都市の将来的な問題を小地域単位で検討するための基礎的情報となる、メッシュ別将来人口推計を公表しており、様々な場面で利用されている。しかし、メッシュ別将来人口推計では多くの誤差が生じる傾向にあるため、誤差が大きい地域（以下、誤差地域）や、増加推計に反して実人口が減少した地域（以下、逆転減少地域）の出現傾向を把握することが重要と考えられる。そこで本研究は、500m メッシュ別将来人口推計で誤差発生に注意すべき地域として、誤差地域と逆転減少地域に着目し、その出現傾向を地域特性から把握することで、推計利用時の留意点を示すことを目的とする。

第3章では、500m メッシュ別将来人口推計における誤差の出現状況やその特性について、基礎的な分析をする。第4章では、誤差地域と地域特性の関係を、メッシュの地域特性を用いた類型化により把握する。第5章では、逆転減少地域と地域特性の関係を、地域特性を説明変数、実人口増減を目的変数としたロジスティック回帰分析により把握する。

分析の結果、推計では誤差地域が多く発生し、実人口が推計とは反対の増減をするメッシュが多いことが確認された。よって、推計利用時に、複数要因から誤差が出現する可能性を念頭に置く重要性が確認された。次に、類型化により、地域特性に応じて異なる誤差傾向が明らかになった。ここから、高層建物地域、80年代NT地域、河川周辺地域、郊外・人口増加地域、農地森林地域、90年代NT地域、施設等の世帯・郊外地域は、誤差が生じやすく、推計利用時に誤差発生に注意すべき地域となる可能性が示唆された。最後に、逆転減少地域に着目した結果、推計増加メッシュの46.5%で実人口が減少したことが分かり、逆転減少地域と地域特性の関係が明らかになった。そして、居住期間が長い住民が多い、建物が低層より高層が多い、人口密度が高く推計人口が2%未満の増加、居住誘導区域外などの特徴のある地域は、推計利用時に逆転減少の可能性に特に注意が必要な地域となる可能性が示唆された。